



明るい未来のための税金

大田区立安方中学校 三年 伊藤 瑞季

私の祖父母の家は、長野県にある。家の前は建物もなく絶景が広がる。家の前から見える星空、見下ろすと見える長野の市街地の綺麗な夜景は、私のお気に入りだ。

そんな祖父母の家の周りは、土砂災害警戒区域のイエローゾーン、特別警戒区域レッドゾーンが広がる。祖父母の持つ畑は崖の下にあるため、少し前から、土砂崩れ防止の目的で石が積まれ、針金のようなもので固定された。また、家の周りは、りんご畑が広がっていたが、そこも対策が施され、石だらけになった。私は、安全の為に分かりながらも、自然がいっぱいの緑に包まれた場所がどんどん変わっていくのを見て寂しい気持ちだった。けれど、祖父母はいつも「ありがたい。」と言っていた。祖父母に聞けば、もう何年も前から対策は行われていたそうだ。ふと私は、「この祖父母の安全を守ってくれる対策は、どのように行われているのか」と疑問に思った。気になって祖父母に聞いてみると、その対策には『税金』が使われていることが分かった。税金で安全を守る対策をしてくれて感謝の気持ちでいっぱいになった。

近年、日本では地震や、豪雨など、色々な災害が起きている。地震では、家屋倒壊や津波。大雨では、土砂災害が起きている。それにより、

多くの人、場所などが被害を受けている。最近では、元日の日に、石川県で能登半島地震が起き、沢山の被害が生じた。こんな時、被害を受けた人々を助けるため、災害からの復興を助けるため、私たちの国では税金が使われている。

調べてみると、「復興特別所得税」というものがあることを知った。これは、二〇一三年一月一日から二〇三七年までの二十五年間、通常の所得税に上乗せして徴収される税率一・一%の特別税のことだ。その税金は、仮設住宅の建設や、道路の補修、瓦礫撤去、自衛隊活動など沢山の場面に使われていることが分かった。

もし、税金がなかったら。誰が復興をするのか。どうやって明るい日本を取り戻すのか。考えただけで恐ろしい。

日本では、災害は、今や、いっどこで起こるか分からない。それは今日かもしれないし、明日かもしれない。そんな日本で暮らす私たちは、税金によって支えられている。

税金は、何に使われているのかわからないと、嫌なイメージがあるものかもしれない。私も今までは「税金って大変だな。」と思っていた。けれど、税金は日本に暮らす人々が、幸せに生きていくために使われているのだと知って、『税金』の大切さに気付かされた。

祖父母が言う「ありがたい。」という言葉通り、『税金』はとても「ありがたい。」

日本で暮らす全ての人が、税金の大切さに気付き、感謝をして、これからもっと、お互いに助け合い、支え合っていける日本になることを、心から願う。